

管内関係機関 担当者 様

感染症発生動向について

このことについて令和7年第21週(5月19日～5月25日)の動向をお知らせします。

定点あたり患者数(1医療機関当たりの平均報告数)

感染症の種類	県北保健所管内 (平戸市、松浦市、佐々町)			長崎県	全国
	19週	20週	21週	21週	21週
インフルエンザ	0.33	0.33	0.33	0.86	0.53
新型コロナウイルス感染症	3.67	2.67	0.67	0.78	0.84
RSウイルス感染症	0	0.50	0.50	0.26	0.32
咽頭結膜熱	●3.00	●4.00	●5.50	0.90	0.57
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	1.00	2.50	2.48	2.84
感染性胃腸炎	13.50	11.00	9.50	7.42	6.96
水痘	0	0	0.50	0.97	0.59
手足口病	0	0	0	0.45	0.18
伝染性紅斑	0.50	1.00	0	0.58	1.97
突発性発疹	1.50	0.50	0	0.52	0.40
ヘルパンギーナ	1.00	1.50	1.00	0.10	0.08
流行性耳下腺炎	0	0	0	0.10	0.09
急性出血性結膜炎				0.75	0.05
流行性角結膜炎				2.63	0.79
細菌性髄膜炎	0	0	0	0.08	0.02
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.03
マイコプラズマ肺炎	1.00	2.00	0	0.42	0.38
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0.01
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0.67	0.19

急性呼吸器感染症 (ARI)	39.67	54.00	39.33	66.96	57.29
----------------	-------	-------	-------	-------	-------

●:警報レベル ▲:注意報レベル

【トピックス】 感染性胃腸炎の感染予防に努めましょう。 第21週の報告数は230人で、前週より88人少なく、定点当たり報告数は「7.42」でした。地区別にみると、佐世保地区「20.50」は、6週続けて警報レベルの報告数となっています。県北地区は「9.50」でした。今後も動向に注意し、予防に努めましょう。 感染性胃腸炎は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。予防には手洗いが重要です。手洗いを励行し、体調管理を行い、積極的な感染防止に努めましょう。
【トピックス】 百日咳の報告が多くなっています。 百日咳は、主に百日咳菌の感染によっておこるけいれん性の咳発作を特徴とする気道感染症です。潜伏期は通常5～10日で、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増え程度も激しくなります。夜間の咳発作が多いことも特徴で、回復までに2～3か月かかることもあります。また、乳児では、肺炎、脳症を合併し、重症化することもあります。ワクチンの定期接種により発生数は激減していましたが、2025年は第21週までに202件の報告があります。年代別では、10代、10歳未満が多くなっていますが、20代以上でも報告があります。感染経路は飛沫感染ですので、咳エチケット、手洗い、手指消毒で予防に努めましょう。
【トピックス】 結膜咽頭熱の報告が多くなっています。 咽頭結膜熱は発熱、咽頭発赤、結膜充血などの症状・所見を伴う、小児に多い急性ウイルス性感染症です。5月頃から徐々に増加しはじめ、6～7月にピークを形成する夏期に多い感染症ですが、一年を通して感染する恐れがあります。咽頭結膜熱はアデノウイルスが原因病原体であり、流行を起こすのは多くが3型ですが、2型、4型、7型、11型なども本症を起こします。潜伏期間は5～7日で、発熱、咽頭炎(咽頭発赤、咽頭痛)、結膜炎が3主症状であり、まれに肺炎など重症化する場合があります。 県北地区においては、2025年においては、第18週から警報レベルの報告となっており、第21週は「5.50」でした。小児の集団生活の中では感染が拡大しやすいことから、保育施設などでは、職員を含め体調不良者は出勤・登園を控えることや、流水・石鹸による手洗いや手指消毒の励行、タオルを共有しないこと、手すりやドアノブ、おもちゃなど多くの人が接触する場所や物の消毒、排泄物の適切な処理等をし、予防に努めましょう。 [出典:国立健康危機管理研究機構 感染症情報提供サイト]
長崎県県北保健所 地域保健課 健康対策班 TEL 0950-57-3933